

wellvoice

たちかわ市民討議会

ご近所のチカラ、求ム。

- コミュニティを盛りあげる -

(2007年5月27日実施)

報告書



社団法人立川青年会議所
きづく・たちかわ委員会

もくじ

はじめに	1
市民討議会とは	2
市民討議会の特徴	2
開催までの経緯	3
運営の結果	4
開催前の準備	4
開催当日	6
テーマ討議の実施結果と考察	9
実施後の評価と今後の課題	14
参加者のアンケートから	14
実施後の評価と課題	15
今後の展開	17
まとめ	18
謝辞	18
資料編	19

“wellvoice” の名称について

市民討議会に対する知名度や内容に対する認知度がまだまだ低い現在、「公開討論会」や「市民会議」などとの区別が付かず、浸透させる上での障害となるのではとの考えから、愛称をつけようという声があがりました。いくつかの案から、最終的に「wellvoice」の名称が選ばれました。

① “well(申し分なく)” と “voice(声)” を合わせた造語としての「よりよい声」として、② “well” のもう一つの意味である「井戸」にかけ、「井戸端会議」のように気軽に活発に意見を出し合えるような討議体としたい、との思いから命名しました。

はじめに

各地の自治体において「住民との連携」をキーワードに、さまざまな市民参画への試みが行われておりますが、その手法の多くは、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べるのは関係者や専門家などの特定の市民であることがほとんどではないでしょうか。

この為、さまざまな問題意識をもちながらも、普段住民票の交付行政との接点が少なく、実際には各々地域行政への取り組みに積極的に参画するまでには至らない多くの市民にとって、行政に参画する可能性は限られているのが現状です。このような皆さんを「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し行政に反映させることは、幅広く多様な市民に対応した行政サービスの提供を可能とし、それを市民が実感し参画意欲をさらに高めていく上で、重要なことと考えております。

「wellvoice たちかわ市民討議会」は、そんな市民の社会参画を目指す新たな試みです。この事業は、無作為に選出し選ばれた市民により、地域や社会の問題について討議をし、得られた合意を

行政・地域に提言していくものです。地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えております。

今後も「wellvoice たちかわ市民討議会」を継続して開催し、行政や他団体との協働も視野に入れながら、よりこのまちに適した「たちかわスタイル」の市民参画・地域課題の解決ツールとして発展させていきたいと考えております。ぜひとも皆様には、今後ともご理解を賜り、共にこの「wellvoice たちかわ市民討議会」を新しい社会のしくみとして確立できるよう、よろしく願い申し上げます。

社団法人 立川青年会議所
きづく・たちかわ委員会 委員長
金子 幹広

市民討議会とは

地方分権の進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。

しかしその手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状です。

個人の行政参画意識の高いドイツには「プランクスツェレ (Planungszelle)」と呼ばれる市民参画のシステムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。解決しなければならない問題などを様々な視点から複数のテーマに分け、無作為に選ばれた市民や地域の住民がテーマごとに専門家などの意見を聞いた上で討議を行い、結論を導き、メディアなどを通じて発表していくものです。

市民討議会は、この「プランクスツェレ」を日本版にアレンジし、社会に定着させるための試みです。地域や社会が抱える問題を市民や地域住民が共有して考えるきっかけとなり、地域社会の再生の足がかりになるものと私たちは確信しております。

社団法人立川青年会議所では、より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の方法として、「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催し、社会に定着させていきたいと考えております。

市民討議会の特徴

(1) 参加者の無作為抽出

市民の中から無作為に抽出された一定数（未成年者を除く）に開催の案内状をお送りし、参加者を募ります。

(2) 参加者への有償性

多くの市民参加型事業とは異なり、討議会への参加者には日当・食事が支給されます。これはドイツのプランクスツェレと同様、金銭を支給

することにより参加者に「責任ある仕事」として取り組んでもらう点に重きをおいています。

(3) 専門家による情報提供

討議の開始に先立ち、テーマに関する専門的知識をもった関係者を招き、参加者への情報提供を行います。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。

(4) 討議・発表・投票

情報提供後、おおむね5人を1グループとした討議を行います。立川青年会議所では案内を受けた方の誰でも参加がしやすく、かつ市民討議会のしくみを知ってもらうために、75～90分の討議を1コマとし、午前・午後各1コマ、1日間の開催としています（プランクスツェレの場合は90分の討議を1コマとして1日4コマ、4日間にわたり行い、提言にまとめています）。

討議後にグループ単位による意見を発表した後、参加者全員による意見への投票を行います。賛同できる意見であれば他グループへの投票もできます。

(5) 市民報告書の発表

討議・投票の結果をもとに意見の集約を行い、市民・行政機関・マスコミなどを通して提出公表を行います。

開催までの経緯

2005年

(1) 東京青年会議所における開催

2005年7月に、社団法人東京青年会議所千代田区委員会の主催により、国内初の「市民討議会」が開催されました。「市民で形づくる行政－社会的支援すべき市民活動の課税問題」をテーマに2日間にわたり討議を行いました。

2006年

(1) 3青年会議所合同事業の開催

4月に、財団法人日本青年館ホールにて、社団法人東京青年会議所、社団法人町田青年会議所との3青年会議所共催による合同事業「市民の声かたちになる、新しい社会のしくみ」を開催しました。市民の社会参画の必要性、過去における参画の方法論についての『模擬討論会』を行い、市民の社会参画の必要性と市民討議会という手法の有効性を説くとともに、3青年会議所理事長によるパネルディスカッションを実施し、今後の市民討議会の開催、地域への浸透を目指した共同宣言を採択しました。

これを受け、立川青年会議所では実施に向けた本格的検討に着手しました。

(2) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2006年度ゆめかなえる委員会（矢澤貴光委員長）担当のもと、8月5日に立川市女性総合センターアームにて多摩多摩地域では初の試みとなる「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催しました。市内地番からの500世帯抽出・ポスティングによる参加者募集を行い、当日12名の参加により「市議会と市民の関わり」をテーマとする討議を行いました。

情報提供者として三葛敦志氏（国分寺市議会議員）、伊藤伸氏（構想日本 政策スタッフ）を招き、市議の立場からみた議会の姿や各国の地方議

会のしくみや報酬などについて説明をいただきました。また、立川市より企画政策課、議会事務局も傍聴に訪れました。

参加者の皆さんは初対面にもかかわらず、開始直後から積極的な意見を交わし、発表・投票を経て、「議会に関する情報をもっと積極的に公開べき」「議員・議会と市民の接点を増やす」などの意見傾向が得られました。

討議・運営の結果は『wellvoice たちかわ市民討議会 実施報告書』として立川市議会議員および議会事務局、立川市役所担当各課、マスコミ等に配布し提言を行いました。

2007年

上記の結果を受け、立川青年会議所では市民の社会参画を促す手法のひとつとして、事業運営全般を今年度の「きづく・たちかわ委員会」に引き継ぎ、今年度も市民討議会を開催し、制度の認知と充実を図ることとなりました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2月4日に立川市女性総合センターアーム5階第1・第2和室にて「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をテーマに開催し、市内1200世帯の無作為抽出・ポスティングを行い10名が参加しました。討議・運営の結果は報告書にまとめ、4月に行政・市議会・参加者・マスコミ等に配付し提言を行いました。

開催前日までに産経・東京各紙地方面に開催の記事が掲載されたほか、当日の様子を信濃毎日新聞（長野市）が取材し、3月3日朝刊の連載記事「民が立つ」に掲載されました。

運営の結果

開催前の準備

■広報

事業PRとして、A4二つ折り両面刷りのリーフレットならびにA4両面カラーのチラシを制作しました。



案内チラシ

(1) チラシの配布

チラシは会場となる立川市女性総合センターアイムをはじめ、市内公共施設（連絡所・公民館等）への配置を行いました。また、社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（会長・永井和之中央大学総長）に依頼し、立川活動拠点 AGORA 立川（柴崎町）にチラシを配置し、近隣地域の学生に対して「市民討議会」というしくみへの周知を図りました。

(2) ホームページ

立川青年会議所のホームページ（<http://www.tachikawajc.or.jp/>）に市民討議会に関するサイ

トを開設し、今回の事業ならびに昨年8月・今年2月の開催報告を掲載しました。

(3) 新聞記事

プレスリリースを行った結果、朝日新聞社立川支局より取材があり、5月26日付朝刊地方面に開催に関する記事が掲載されました。

(4) その他

先述の社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩に依頼し、法人のメーリングリストにて事業を紹介していただきました。

■無作為抽出による参加者募集

(1) 住民基本台帳からの抽出

2005・2006年度に東京青年会議所千代田区委員会で開催された「市民討議会」や、昨年三鷹市において行政が中心となり開催された「みたかまちづくりディスカッション」においては、無作為抽出の手段として住民基本台帳が利用されました。立川においても昨年来の企画段階より、抽出における台帳の利用が検討されました。しかしながら昨今の個人情報保護に関する諸問題から住民基本台帳の閲覧に対する制限が強化され、行政との打ち合わせでも「市民討議会に対する認知度が低い現段階においては、台帳利用に対して市民の理解を得るのは難しい」との見解もあり、前回に続き見送られることとなりました。

(2) 地番からの世帯単位による抽出

前回同様市内の各町丁から無作為に選び、当該世帯に直接案内状をポスティングする方法をとることとし、以下の方法により、市内地番からの無作為抽出を実施しました。この方法は厳密には完全な無作為抽出とはいえませんが、号数の指定にもランダムで数字をあてるなど、極力恣意性を排除するよう心がけました。

過去2回の経験から、地番単位での無作為抽出を行う場合、集合住宅居住者への抽出確率が相対的に低くなることへの対策として、同一地番

で100戸以上の世帯がある場合は「集合住宅枠」としてあらかじめ一定の抽出枠を割り当てることにしました。対象住宅の選定は住宅地図を基準に決定しました。

立川市の世帯数(78,581)を配布世帯数(1,500)で除すとおおよそ50世帯に1戸の割合で届く計算になります。

$$78,581 \div 1,500 = 52.38\dots$$

具体的には100戸以上の住宅に対して戸数を50で除し1を引いた数を割当枠としました。

(例) 300戸の住宅の場合

$$300 \div 50 - 1 = 5$$

- 抽出対象 立川市内全域
- 募集対象 市内在住の18歳以上の男女
- 抽出数 1,500世帯
- 対象者の抽出
 - 母集団 市内の全世帯
 - 地点数 1,500
 - 抽出法 層別二段無作為抽出
(層別→地点抽出→対象世帯抽出)
 - 層別 市内の町丁を単位として
層化
79地区
 - 地点数配分 各地区内の世帯数に応じて
発生確率を比例配分
 - 対象者抽出 各地番にランダムで号数の末尾
1桁を選定(例:9の場合は9号、
19号、29号…のいずれか)

表1 市内各町の抽出ならびに出席回答数

町名	世帯数 ^{*1}	抽出数	出席返答
富士見町	9,084	191	0
柴崎町	4,592	80	1
錦町	8,282	162	3
羽衣町	5,087	96	0
曙町	5,053	80	0
高松町	5,242	100	0
緑町	1,473	25	0
栄町	5,487	78	0
若葉町	5,285	148	3
幸町	5,740	97	1
柏町	3,909	80	0
泉町	363	8	0
砂川町	6,094	98	1
上砂町 ^{*2}	4,333	89	0
一番町	5,588	123	0
西砂町	2,969	45	0
計	78,581	1,500	9

^{*1} 2007年1月1日現在(立川市サイトより)

^{*2} 上砂町6・7丁目については人口0につき除外

(3) ポスティング

ポスティングには以下の資料を同封しました。

- ・当日案内チラシ
- ・テーマ説明
- ・補足資料「ご案内を読んだ後に」
- ・過去の新聞記事抜粋
- ・立川青年会議所のご紹介
- ・返信用ハガキ(料金受取人払)

ポスティング作業はきづく・たちかわ委員会をはじめとする青年会議所メンバーにて分担し、5月19～22日にかけて実施しました。事前に住宅地図を用いて確認の上投函を行いましたが、当該世帯が転居、もしくは空家や空地となっていた場合は、そのまま持ち帰りました。



ポスティング資料

■参加者

市内 1500 世帯へのポスティング（第 2 次・700 世帯）を行った結果、合計で計 9 名より出席、1 名より傍聴の回答がありました。このほか 7 名から「当日都合がつかず欠席」との返信が届きました。

また、前回開催時（2 月）に当日急用で欠席された方より、今回の開催に関する参加問い合わせがあり、最終的にこの方を加えた 10 名にて討議を行いました。

表 2 参加者一覧

男性 (60)	柴崎町
男性 (53)	柴崎町
女性 (77)	錦町
女性 (50)	錦町
女性 (59)	錦町
女性 (69)	若葉町
男性 (66)	若葉町
女性 (61)	若葉町
女性 (65)	幸町
男性 (70)	砂川町

開催当日

2007 年 5 月 27 日、立川市女性総合センター アイム第 3 学習室にて、「ご近所のチカラ、求ム。－コミュニティを盛り上げろ－」をテーマに、様々な角度からの情報提供を得た上で議論を行いました。

■会場

過去 2 回の開催では和室を使用しましたが、今回は洋室（テーブル・椅子形式）で設営しました。



討議会場

■傍聴室の設置

傍聴に訪れた来場者に①「無作為抽出者による討議」という形式が事前の告知チラシ等で十分に理解されるか、②自由に意見を述べるフォーラム等と混同した来場者による、会議場内での不用意な発言などをさけるため、前回開催時と同様別室で傍聴室を設置しました。本会場には無作為抽出による参加者、運営スタッフ以外の入室は事前の承諾を得るものとし、傍聴室でのモニタリングを原則としました。

各グループの討議の様子が見えるよう、ビデオカメラ 1 台を討議会場（第 3 学習室）に設置し、隣室（第 1 学習室）にて来場者が討議の様子や内容を理解できるように配慮しました。



傍聴室のようす

■運営人数

当日の運営は統括責任者以下、司会進行1名、参加者受付2名、傍聴者受付2名、カメラ操作2名、傍聴室3名の計10名にて実施しました。

■討議のグループ分け

今回は討議の単位として、5名×2グループにランダムに分けました。グループ分けについては過去2回ににらひ、午前のDISCUSSION 1では先着受付順にA・Bグループの順に分け、討議を行いました。

午後のDISCUSSION 2では討議開始前に、再度くじ引きを行い、A・Bグループの2グ

タイムスケジュール

10:00	開会 ご挨拶・ご説明
	DISCUSSION 1 討議 いま、地域をとりまく課題について
11:00	情報提供 帝京大学教授 菊池 美代志氏 立川市市民活動課 井上 隆一氏 補足説明
	DISCUSSION 2 討議 コミュニティ活動が直面する問題
12:00	発表・投票
	昼食・休憩
13:00	情報提供 たちかわ市民 宮本 直樹氏
	DISCUSSION 3 討議 コミュニティの活性化に向けた妙案とは？
14:00	発表・投票
	アンケート 総評・謝辞
15:00	閉会
16:00	

ループを決定しました。DISCUSSION3はDISCUSSION2のグループを引き継いだ形で行いました。

■タイムスケジュール

午前・午後とも討議60分（用紙への書き込み作業も含む）、発表10分以内×2グループ、投票15分にて行いました。開始時に討議の進め方、発表・投票の流れに関する説明の時間を設け、スムーズな進行ができるよう配慮しました。【前ページ図】

■情報提供・専門家への質疑

今回の情報提供は午前2名、午後1名により、討議の前にそれぞれ行いました。午前は菊池美代志氏（帝京大学教授）、井上隆一氏（立川市市民活動課係長）、午後に宮本直樹氏（市内在住・会社員、市民活動センターたちかわ運営委員）による説明を受けました。

情報提供終了後、若干の質疑時間を設定しました。質疑の内容については、説明の中での不明瞭な部分に関する質問のみにとどめました。

なお討議開始後も情報提供者は引き続き会場にとどまり傍聴するとともに、必要に応じ参加者からの個別質問に対する補足等を行いました。



情報提供者による説明

■事前の自己紹介

前回と同様、名札の着用と互いに「～さん」付けで呼び合うとの事前ルールの説明のみですぐに

討議に入りました。

各グループとも討議冒頭より積極的な意見が飛び交い、初対面に関係なく事前の趣旨・要領説明で対応できました。

■討議形態

討議の間、グループごとのファシリテータはとくにおかず、室内の運営スタッフが情報提供者への取り次ぎ、その他討議運営上の補足等の対応を行いました。

2月実施時と同様、グループごとに大判の付箋紙を用いて、意見を出し合い討議の上、意見を最大4つに集約しました。また「残したい意見」（付帯意見）として用紙下部に記入欄（3ヶ所）を設け、より多彩な意見を表明できるようにしました。

■討議結果の発表

各グループにて、討議で表出された意見をあらかじめ準備したA0判の用紙にサインペンで書き、室内中央に設置したホワイトボードに掲示の上、グループ単位で意見発表を行いました。発表は1グループ5～10分で、各グループから代表者が掲示板前に立ち、行いました。

■投票

各グループの発表後、参加者10名による投票を実施しました。1つの課題（小テーマ）に対してひとりあたり5票をもち、各グループより発表された意見に対する賛成票を投じました。

テーマ討議の実施結果と考察

テーマ設定の背景

今回の市民討議会のテーマとして「ご近所のチカラ、求ム。」と題し、地域コミュニティの活性化についてとりあげました。

私たちが暮らす地域には、自治会やNPO、サークルといったさまざまなコミュニティ組織があり、それぞれにおいて防犯・防災・子育て・環境などいろいろな課題に取り組んでいます。

しかし、加入率の低下・高齢化に悩む自治会、スタッフ不足や活動場所の確保にも苦慮するNPO、メンバーの固定化、活動のマンネリ化に悩む各種団体など、「地域の再生」が叫ばれているながら、多くの地域コミュニティが、実際には活動の現状や将来の見通しに少なからず頭を抱えています。地域の課題に関心がある人は決して少なくないのに、なかなか人が集まってこないのはなぜでしょうか？

地域をよくするのは、そこに暮らす人たちひとりひとりの「チカラ」です。ひとりでも多くの市民が関心をもち、参加する「活きのいいコミュニティ」をつくるには、どのような手があるでしょうか？

専門家や実際に地域活動に携わる市民の方からの情報提供を交え、地域に関心がある人・ない人がランダムに集まり、意見を交えることはできないか？と考え、今回の討議テーマとして選定しました。

情報提供者・資料提供について

情報提供者として、菊池美代志氏（帝京大学教授）を招き、自治会組織を中心とした地域コミュニティに関する概論をお話頂きました。次いで井上隆一氏（立川市産業文化部市民活動課係長）より、地域のコミュニティ活動に対する立川市の取組の現状について、行政資料を交えながら説明を

もらいました。

さらに、市民の立場から実際にコミュニティ活動に関わっている方の現場の声として、宮本直樹氏（市内在住・会社員）にお話を頂きました。

得られた意見の傾向について

午前・午後にわたる討議の結果、次ページ以降に示す意見の傾向が現れました。これらの結果が導かれるまでに、午前・午後それぞれ10名の立川市民が2つの課題について同様に議論し、意見発表を行いました。

次ページ以降に、両課題における参加者の意見傾向を報告いたします。投票は10名が各々5票を投じ、各課題とも投票総数は50票となります。

DISCUSSION 1

いま、地域をとりまく課題について

防犯、防災、教育、福祉、環境、お祭りなどのイベント…日々の暮らしや人との関わりの中、いろいろな問題やテーマがあると思います。皆さんの地域やでは、いま、どのような取り組むべき課題や興味をもつテーマがあるでしょうか？

【結果】

大きく分け、「治安・防犯」「防災」といった身の回りの安全に対する問題と、今回のテーマでもある「自治会（コミュニティ）そのもの」について、それぞれA・B両グループから課題として挙がるなど、関心の高さがうかがえました。

「治安・防犯問題」については街灯の少なさやいわゆる「空き交番」の問題が挙げられました。今年4月から警察では「地域安全センター」の設置、OBの配置などによる地域の防犯力の強化を進めています（※立川市内の交番は今回の転換には含まれていない）が、まだ住民レベルでは効果を実感するには至っていないことも今回の指摘

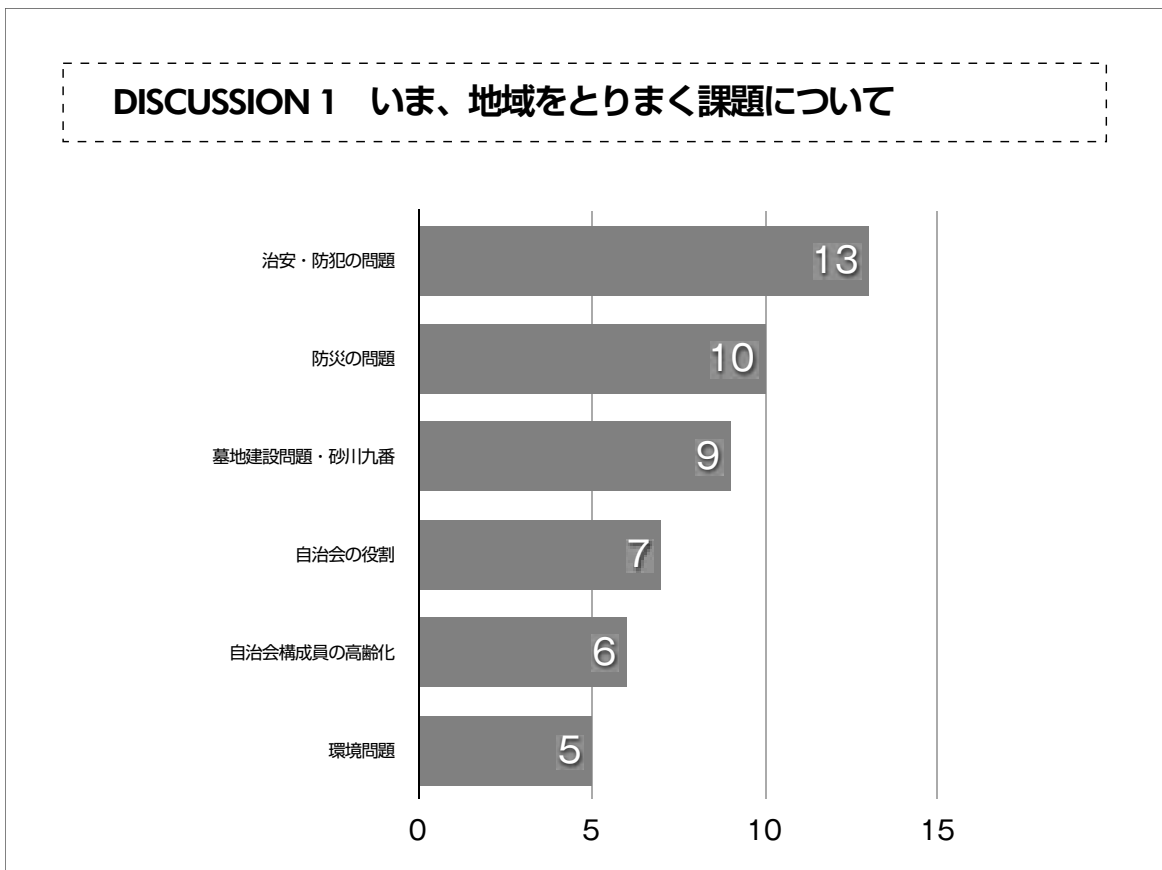
の背景にあると思われます。さらに、両グループとも、立川駅南口の治安対策の強化対策を指摘しています。

「防災対策」については、緊急時に建て込んだ民家や狭い道路が障害となる危惧や、災害に備えた地域の体制作りの必要性が指摘されました。

一方、「自治会」に関する問題については構成メンバーの高齢化に対する懸念のほか、町会費の会計に対する透明性の低さ、行事等の募集が不十分な点など、情報の不足に対する意見も挙げられています。

その他、砂川九番（若葉町）で現在計画されている墓地建設にかかわる問題、散らかったゴミや道路の清掃といった、身近な住環境に対する問題への関心の高さも挙げられました。

以上より、日頃の生活から人間関係の希薄さを感じる現状に、事件や事故、地震・火災・水害など「いざ」という有事に直面したときに、現状のままで地域コミュニティが果たして有効に機能するのかという懸念が広がっていることがうかがえます。



DISCUSSION 2

コミュニティ活動が直面する問題

市内には自治会やNPO、社会教育団体、サークルなど、さまざまな形のコミュニティがあり、それぞれが関心をもつ課題に活動を行っています。しかし「地域の再生」に対する市民のニーズは高いにもかかわらず、現実には加入率の伸び悩み、運営スタッフ・活動場所の不足など、「活発化どころか、維持するので精一杯だよ…」という声が聞こえるコミュニティは少なくないと思います。

このように、地域のコミュニティの活性化が思うように進まない理由について、実際にコミュニティに関わっている「内側」の人、若者、マンションなどの新住民、サラリーマン家族など、「外側」の人それぞれの観点からどのようなことが考えられるでしょうか？

【結果】

「時間的な問題」「人間関係」に関する意見への投票が5分の4を占めました。

「時間的な問題」については、子育てや介護、仕事などに追われて時間的余裕が足りず、地域のことまで興味や関心がもてない、若い世代が活動に参加しにくい環境になっているなどの指摘がありました。

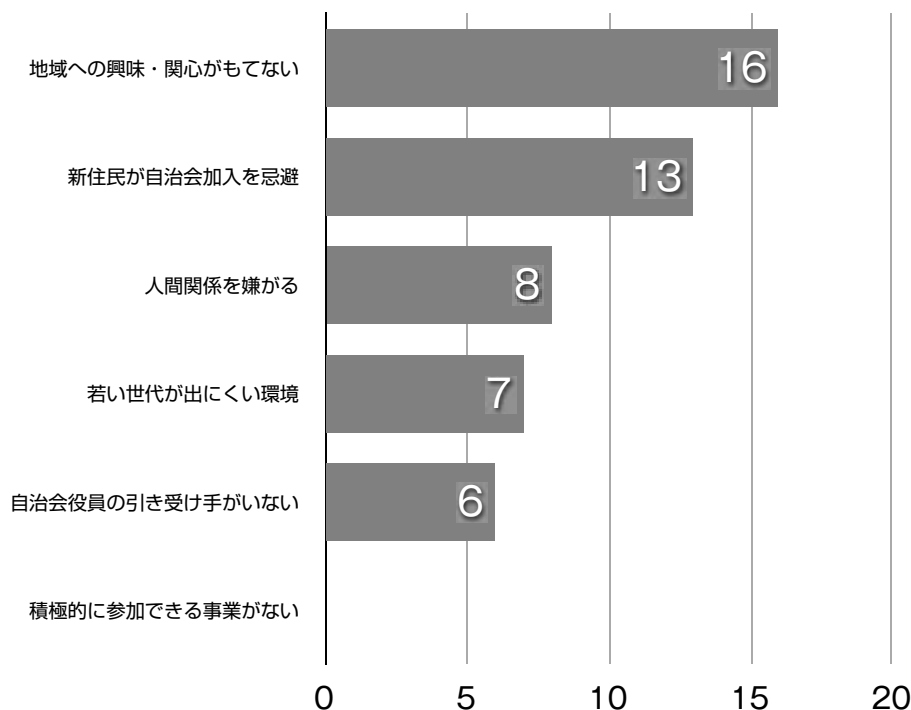
「人間関係」については、心理的なわずらわしさや、地域との人間関係がいやで自治会に入らないといった指摘がされました。

また、役員の引き受け手がいないことや、新住民が自治会の加入を避けているといった人材不足に関する指摘については、その背景として先に挙げた理由が考えられます。

その他、団地や商店街、新興住宅地など、それぞれの地域性によって直面する問題は異なるという指摘もありました（6票）。

また、残したい意見としては、役員・幹部による情報発信の工夫の必要性、最終的にはまちづく

DISCUSSION 2 コミュニティ活動が直面する問題



りのありかたの問題につながってくる」との指摘を受けました。

以上より、地域コミュニティ、特に自治会の活動が困難となっている原因として、従来の地域における組織運営が、現在までの時代の移り変わりに伴う、世代や職業などの構成・生活形態の変化に対して、必ずしも十分に対応しきれていない点が浮かび上がりました。このことが新興住宅地やマンション等の新住民を中心とした層の加入を阻害する理由のひとつとなり、組織のメンバー・固定化運営の固定化、従来の運営方法の転換を妨げ、ますます新加入が進まないという悪循環を招いていると考えられます。

行政から提供された資料にもみられるように、市内の各地域における自治会の加入率、構成比といった具体的な数字の違いは、世代や職業といった構成の時代的变化の差異が、こうした現状を裏付けるものとみられます。

さらに個人情報保護法の施行に前後した、プライバシーに対する一部では過剰とも思える昨今の反応は、こうした傾向を今後さらに加速させることも懸念され、地域における身近な近所つきあいからはじまる「コミュニティの再生」に対する逆ベクトルとして作用することも考えられます。

DISCUSSION 3

コミュニティの活性化に向けた妙案等は？

世代、性別、職業、このまちに暮らしてきた期間…地域に暮らす人々のバックグラウンドはバラエティに富んでいます。こうした多彩な顔ぶれや意見が交わる「活き」のいいコミュニティを形づくるには、どのような「妙案」があるでしょうか？

【結果】

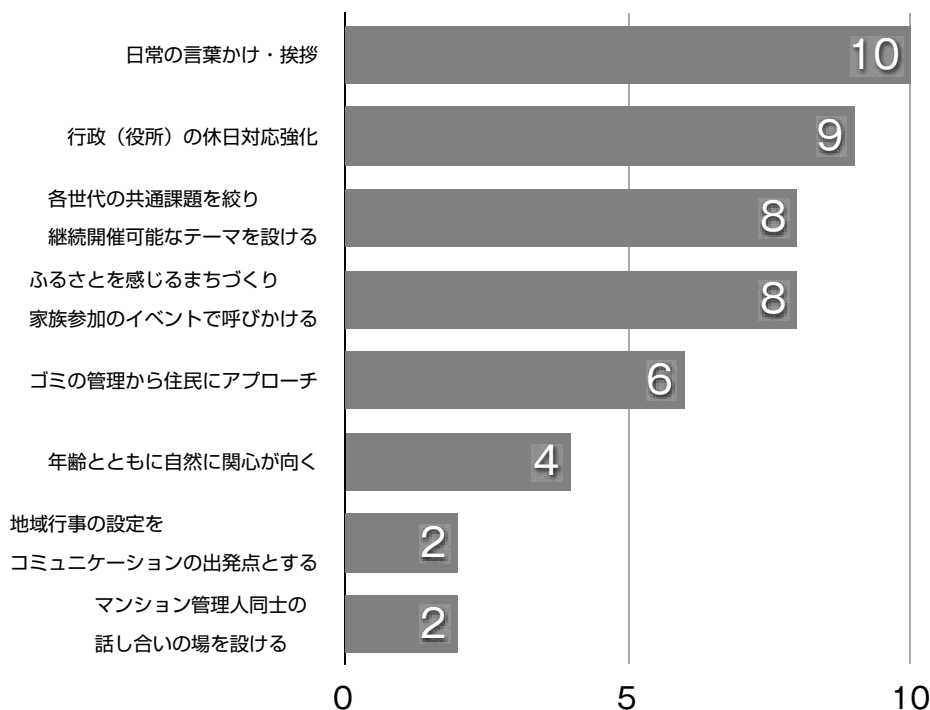
「いかにして話し合いのできる環境をつくるか」という点において、意見・投票とも多く集まりました。

話し合いのできる環境づくりとして、もともと世代ごとに異なる関心や問題提起の中から共通の課題を見つけ出すとともに、継続的な話し合いのにつなげることのできるテーマの設定の必要性が指摘されました。設定例としては地域での行事を決める場面が挙げられています。

さらに、このようなコミュニケーション形成の具体的な出発点として、地域のお祭りや運動会など、家族単位で（特に子ども）参加できるイベントへの声かけ（8票）や、日常的な問題であるゴミの管理からのアプローチ（6票）などが挙げられています。また、話しやすい土壌をつくる上での基礎として、日頃からすれ違うときの挨拶や言葉かけの励行が、住民同士の次の会話につなげる上で重要であるという指摘にも票が集まりました。

その他として、自治会の組織運営においては平日なにかと行政に出向く機会が多いことが、若い世代が役員を受けたがらない原因ではないかと指摘する声もあり、行政の休日対応のさらなる充実を求める意見も挙げられました。また、「年齢を重ねると人恋しさから自然に地域に関心が向くと思う」という意見もありました。

DISCUSSION 3 コミュニティの活性化に向けた妙案等は？



実施後の評価と今後の課題

参加者のアンケートから

市民討議会終了後、参加者 10 名を対象にアンケート調査を実施しました。25 項目について質問を行い、以下にその集計結果を示しました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会について

質問 1「wellvoice たちかわ市民討議会をご存知でしたか？」に対しては、10 名全員が「知らなかった」と答えました。これまでに 2 回開催し、新聞の地域欄でも何度か取り上げられてきましたが、多くの市民からはまだまだ認知されていない状況です。

(2) 市民討議会の印象

質問 2「市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか？」に対しては 3 名が「まじめな案内」と回答しました。また「胡散臭いと思ったが、2～3 日前の新聞報道で理解した」との回答もあり、参加者からは一定の理解をもって迎えられたようです。

質問 5「参加されていかがでしたか？」については、「勉強になった」(7 名)「楽しかった」(2 名)など、おおむね好感触をいただくことができました。一方で「NHK のような取り組みかと思った」と、今回の討議テーマタイトルから、類似名称の番組を想像したとの意見もありました。

質問 7「テーマ設定について」では、7 名が「適切」と答えた一方、難解さを指摘する意見や、話し合ったこと自体を評価する声が挙がりました。

質問 8「次回案内が届いた場合は？」の問いには「日程があえびぜひ参加したい」(6 名)「テーマによって参加したい」(3 名)と答えました。

前回のアンケート結果と同様、取り上げるテーマの関心度が参加数を左右する可能性が示唆されました。

(3) 討議の進め方・設営面

質問 9「情報提供者については？」では「わかりやすい」が 7 票、「わかりにくい」2 票「情報に偏り」2 票との回答がありました。

質問 10 の討議時間(60 分)については、「適切」4 名、「短い」2 名と分かれました。「短い」と回答した方は 1 コマあたりの討議時間として「およそ 60 分」と回答しました。

質問 11「グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか？」では、今回の 1 グループ 5 名の設営に対して半数以上の参加者が適切と答えましたが、同時に「冒頭に自己紹介の時間を設けてほしい」との声が多く寄せられました。進行をスムーズに行う上で 5～10 分程度の互いの紹介時間は必要と思われます。

討議会場設定に関する設問(質問 13)では、「どちらでもよい」を含め 9 名が洋室と回答しています。和室での長時間の着座は負担を感じるとの声が多く挙げられました。

(3) 報酬

質問 14「報酬についてご意見をお聞かせください。また、その理由は？」に対し、3 名が「支払うべき」、2 名は「不要」と回答しました。その他に回答した方々の傾向は「必要とは思わないが、主催者の好意と受け止める」との趣旨でした。

金額については 3 名が「適切」1 名が「多い」と回答し、額については「足代程度でよい」という意見もありました。

(4) 討議の公開について

討議の様態を公開することの是非については「公開」4 名、「非公開」2 名と回答がありました。

(5) 案内状の送付について

無作為抽出に対して住民基本台帳を閲覧することについては、「妥当」(8 名)「使用すべきでな

い」(3名)となりました。「すべきない」理由として、閲覧できる個人情報が多すぎる点を挙げています。

また、直接ポスティングによる投函と住宅地図を利用した郵送による送付の比較では、氏名を記入した郵送の方が「信用できる」(8名)という結果が得られ、前回開催時のアンケートと同様の傾向が得られました。

(6) 開催日程について

開催日に関する質問ではほとんどの方が「土日」と答えました。ドイツのように制度として確立されていない現状では、参加数確保の点で引き続き休日の開催が妥当と考えられます。

(7) 今後のテーマについて

質問 20「今後取り上げてほしいテーマ」には、昨今地震や児童をねらう犯罪の多発を受けてか、7名が「防災・治安」を挙げました。具体テーマとしては「地域住民の参加の手法」「パトロールの方法について」「災害時の人のあり方」などが挙げられています。以下「市政」(6名)「環境」(5名)「交通」(4名)、と続きました。

(8) 参加動機について

質問 4「あなたが参加されることになった理由は？」では、「立川の町に関心」「年代的に余裕がでた」の他、今回は「夫に代わって来た」という回答も複数寄せられました。

また質問 22「これまで市主催のフォーラムや討論会にに参加したことはありますか？」では「ある」が2名、「ない」が7名でした。

(9) その他意見・要望、参加の感想

「今後とも積極的に参加したい」という声や「貴重な体験をした」「勉強になった」という感想も複数の方から頂くことができました。

その一方で「出席の返事を出したが返答が来なかったので直接来た」というご意見もあり、対応が不十分であった点が判明しました。これまで出

席の返信フォームはハガキのみであり、現状では開催日直前の投函、出席の意志に対応できない可能性もあるため、今後 FAX・メール等複数の手法による参加受付等の対策を講じる必要性があります。

実施後の評価と課題

(1) 無作為抽出・参加募集について

今回は市内全域から 1,500 世帯を抽出し、参加目標数を 15 名に設定し募集を行いました。最終的に参加者は 10 名に留まりました。

参加数が伸び悩んだ理由としては以下の 2 点が挙げられます。

①ポスティングの遅延…各戸への投函のタイミングが当初予定の 3 週間前から約 1 週間遅れ、各戸への配布が開催間近となった結果、手紙が届いたときにはすでに他の予定を入れてしまったケースが考えられます。今回のスケジュールの遅延は、1,500 通の配付資料の印刷・折り込み・封緘、および住宅地図からの住所・宛名の拾い出しから入力・ラベル出力までにそれぞれ 1 週間を要し、さらに大型連休・青年会議所他事業をはさんだためずれ込んだことが主たる原因でした。両者のゆとりを持った計画・準備をあらためて痛感しました。

なお、ポスティング作業における負担については、メンバーの移動距離は 500 通も 1,500 通も大きくは変わらないため、この範囲では投函数がポスティングに要する時間を決定することにはならないと考えられました。しかし、青年会議所メンバーが勤務時間の合間、もしくは勤務後の夜間を使つての作業となるため、都合によっては予定通り作業が進められないケースも多々ありました。今後この点も考慮した計画、外注による費用負担等も検討する必要があります。

②テーマへの関心度…今回「コミュニティ」そのものをテーマにあげたことが考えられます。開催前のある程度の予測はしていましたが、地域活動への関心の度合いには、世代により市民の関心に温度差があり、結果として年齢構成が高い結果

となりました。

この他、世帯単位に配布する現行のシステムは、世帯主が開封後、家族の間でどの程度情報が伝わっているかは不明です。討議テーマに対する関心度にもよりますが、家族の中の若年層までに届きにくいという問題も推察されます。

一方、今回は欠席の返信が過去最多の7通ありました。新聞で幾度か取り上げられたこともあってか、徐々にではありますが、認知されてきているのかもしれませんが。

(2) 事前のPRについて

市内公館へのチラシ設置の効果については、討議会終了後に会場（アイム）の残部数確認を行ったところ、ほとんど数に変化がなく、あまり手に取られてはいないようです。

今回は青年会議所ホームページのほか、市民活動センターたちかわのwebサイト「市民活動WEBたちかわ」(<http://act.annex-tachikawa.com>)にも事業紹介を依頼しましたが、青年会議所ホームページのアクセス数の解析からは、本事業による特異的なアクセスの増加は認められず、現段階ではインターネットを経由した顕著なPR効果は認められませんでした。

大手各紙に対するプレスリリースを行った結果、開催前日の朝刊1紙に掲載され、当日3名の方が直接会場に返信用ハガキを持参の上参加されました。

青年会議所という組織に対して決して認知度が高いとはいえない現状においては、新聞等メディアによる報道を通じたPRが、団体・事業の認知ならびに信頼性を高める上でもっとも効果があるようです。

(3) 実施テーマ数・日程について

今回は午前2テーマ、午後1テーマとしました。

第1のテーマについては、討議の進め方をまず知ってもらうとともに、第2以降の活発な討議を促す意味での「トレーニング」としての側面をもたせましたが、実際には2グループとも冒

頭より活発なディスカッションが行われ、当初の設定以上の時間を割く結果となりました。

なお、アンケート結果からは「少なくとも60分程度の討議時間を」という意見を踏まえると、現行の1日開催では、個々の小テーマで一定の討議時間を確保する上では3テーマが上限ではないかと考えられます。

(4) 運営費用について

前回同様、募集・参加の返信における通信費を軽減するため、参加申し込みの返信用には受取人払郵便（1通70円）を利用することで、返信にかかる経費の節減ができました。

(5) 報酬について

前回、そして今回のアンケート結果からは、1日の参加に対する「対価」としての5,000円という金額は、ほぼ半数より「おおむね妥当」との回答が得られました。参加者の皆さんにも責任ある意見、熟慮された意見集約を求めるというプラクティスに倣い、立川青年会議所では今後も手当を充当すべきと考えていますが、参加者の一部からは「無償でよいのでは」との意見もありました。

(6) 会場について

今回の討議会はテーブル・椅子を用いた洋室スタイルで実施し、過去2回の和室での開催と設営、参加者の反応等の比較を行いました。

運営サイドでは和室・洋室の違いによる設営上の問題はとくにありませんでしたが、参加者のアンケートからは「洋室が良い」という回答が多数を占めました。和室開催では座椅子の用意なども行いましたが、やはり長時間の正座・胡座は負担に感じる方が多いようです。

傍聴形式については、今回も別室にモニタを設置し、室内の雰囲気伝えました。ただし具体的な討議の内容までは聞くことができないため、討議のプロセスを見て頂き、多くの人の関心を高めるという現時点においては、会場規模を勘案

し、参加者が討議できる環境を担保した上で可能な限り傍聴者を会場に入れるということも今後検討したいと思います。

(7) 情報提供について

無作為抽出と並び、「偏りのない情報の提供」が提言に対する客観性、信頼性を担保する上での前提となります。過去2回はテーマの設定ならびに情報提供者の選定は立川青年会議所にて行いましたが、今回のテーマを選定するにあたり、立川市企画政策課と事前打ち合わせを重ね、最終的にコミュニティ論（自治会）を専門とする学識者、市民活動に関する行政担当者、実際にコミュニティ活動を実践している市民の三者に依頼することとなりました。

情報提供におけるデータが主に自治会に関するもので、また参加者も地域コミュニティとして真っ先に自治会を想起するなど、全体的に議論の方向・意見も自治会に関する内容が多くを占める結果となりましたが、参加者からは今回の情報提供についておおむね評価をいただくことができました。

(8) グループ討議の形態について

ドイツのプラーヌクスツェレにならい、今回も討議を通したファシリテータはおかず、司会が全体のタイムキーパーを兼ね、その他室内の運営スタッフが事務的な取り次ぎや補足のみを行うスタイルをとりました。スタッフをグループ討議の時間中配置する必要もなく、積極的に討議いただくことができました。

今後の展開

一町内など小エリアでの開催の可能性

今回コミュニティをテーマに実施しましたが、今後、各町・自治会・学区単位など、小さいエリアでの身近な諸問題に対するディスカッションの手法、少しでも住民の目を地域に向けさせるため

のツールとして、この無作為抽出による募集の手法が使えるのではないかと考えます。

例えば自治会ごとのゴミの出し方の問題や、学区区での不審者対策など、より日々の生活に身近な話題について、もっとも身近な単位である町丁単位であれば、エリアも小さく、例えば自治会やサークル員によるポスティングも、土地勘があるため比較的短時間かつ容易に行えるのではないかと考えます。

また、近隣の公民館・集会所等を会場として使うことで、駅周囲まで出る必要もなく、会場まで足も運びやいため、参加に対するハードルを下げ効果が期待できます。

開催におけるネックとなる参加者への手当費用については、例えば地元商店会とのタイアップによるクーポン等の商品券や割引を用意する、地域での直近の行事・イベントへの参加を促すクーポン等（例・納涼祭の飲食チケット）など、工夫次第で対応が可能ではないかと考えます。

マンション建設などで地域によっては他地域からの新住民も増えている現在、こうした人々と一緒に今後の地域づくりを行ない、コミュニティを再生・活性化する上でのきっかけの一つとして、今後システムの紹介、整備検討を進めたいと思います。

まとめ

地域の問題解決ツールの一手段として「wellvoice たちかわ市民討議会」の確立・定着を目指すにあたり、参加者によるより深い討議を行う上での、情報提供者の選定の重要性、そのためには行政担当者とのこまめな連絡、討議テーマに対する広範な情報入手のための他団体との協働など、まさに今回討議した「コミュニティ」間の一層の連携や情報共有の必要性をあらためて感じた今回の開催でした。

今後の市民討議会については、年内には武蔵村山市において来る9月22日（日）に「市議会と市民の関わり」をテーマとする開催（wellvoice むらやま市民討議会）を予定しています。

また、立川青年会議所では昨年に続き、東京・町田両青年会議所と「3LOM 合同事業」を展開しており、東京青年会議所では8・9月にかけて、都内4区（千代田・墨田・葛飾・江東）での開催を、町田青年会議所でも10月13・14日の開催を目指し、行政と協働を進めています。

このほか、6月には青梅青年会議所が、9月から10月にかけて多摩市・日野市において、町田同様、青年会議所と行政の協働により開催され準備が進められるなど、徐々にではありますがこの新しいしくみを広げていこうという機運が高まりつつあります。立川青年会議所としても地域に根ざしたツールとして、今後さらなる進化をめざし継続的な検討を重ねていきたいと思いをもちます。

謝辞

ご参加を頂いた方より「生まれも育ちも立川で、少しは立川のことを愛してみようと…」 「今後とも積極的に参加したい」というお言葉を頂くことができました。この様にお感じになられた方々の期待を無駄にすることなく、市民の社会参画を促す手法として、この市民討議会の必要性・有効性をさらに多くの皆様にご理解頂けるよう、今後の継続した開催を通して検討を進めていきたいと考

えております。今後とも青年会議所運動に対し、皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

今回の wellvoice たちかわ市民討議会に、ご理解ならびにご参加いただきました市民の皆様、またご多忙の中、情報をご提供いただきました菊池美代志先生、井上隆一様、宮本直樹様、また企画段階より多くのご助言・ご協力をいただいた立川市企画政策課主査浅見知明様にはあらためて厚く御礼を申し上げます。

参考資料

- 地域社会研究 11 号（別府大学地域社会研究センター）2005 年
- 地域社会研究 12 号（別府大学地域社会研究センター）2006 年
- 地域社会研究 13 号（別府大学地域社会研究センター）2006 年
- 市民討議会報告（社団法人東京青年会議所千代田区委員会編）2005 年

資料編

■参加者アンケート結果

※回答に関しては一言一句そのまま掲載させていただきます。

※無記名による回答です。(当日参加者 10 名による)

1.a) これまでに「wellvoice たちかわ市民討議会」をご存じでしたか？

- 1 知っていた 0 票
- 2 知らなかった 10 票

2. 「市民討議会参加のお誘い」が届いたときどのようにお感じになりましたか？

- 1 厄介だなと思った。0 票
- 2 胡散臭いと思った。1 票
- 3 まじめな案内だと思った。3 票
- 4 その他 7 票
 - ・どんなことを話し合うのか不安
 - ・行政に頼らない、市民による市民のための市民づくりだと思った
 - ・これはいったい何だ！…と思った
 - ・JC は知っていたので、参加しても OK かなと
 - ・何のために届いたのか、実行の程は…等など思った

3. 市民討議会の説明文はご理解いただけましたか？

- 1 イメージはつかめた。6 票
- 2 よくわかった。3 票
- 3 よくわからなかった。0 票
- 4 その他 1 票
 - ・まだまだこれからだと思います

4. ご案内が届いたあとに関するご質問です。家族の中からあなたが、市民討議会に参加される事になった理由をお聞かせください。

- ・年代が余裕になったこと
- ・立川の町に関心があったから
- ・病気でなければ主人が行きたいと申し出ておりましたが、出席できそうもないので私が出席して

みたらという事になりました

- ・立川市に関すること、一度も参加したことがなかったから
- ・主人は無関心だったので、私が来ました
- ・自分しか参加する人はいない
- ・主人に「おまえが行ったら」と言われたから
- ・様子伺いの為、出席してみたいと思った
- ・世帯主だから

5. 実際に「市民討議会」に参加されてみていかがでしたか？(複数回答可)

- 1 楽しかった 2 票
- 2 勉強になった 7 票
- 3 新しい発見があった 1 票
- 4 興味がわいた 1 票
- 5 つまらなかった 0 票
- 6 難しくてよくわからなかった 0 票
- 7 想像とは違った 1 票
 - ・NHK のような取り組みかと思っていた
- 8 その他
 - ・初めての方ばかりでしようから心配でしたが、私にとっては新鮮な企画で面白かったです

6. 市民討議会に参加される前と後では何か変わりましたか？

- ・市民参加という言葉にとらわれないでもよいこと
- ・何かまたお声がかかったら出席したいという前向きな考えになりました(どっぷり主婦でしたので…)
- ・もう少し自分の町を愛してみようかな…
- ・人それぞれの考えが分かった
- ・変わらない

7. 今回の市民討議会のテーマ設定についてはいかがでしたか？

- 1 適切であったと思う 7 票
- 2 興味が無いのでピンと来ない。 0 票
- 3 難しすぎる。 0 票

- 4 市民がやるべき事ではない。0 票
- 5 その他
 - ・難解ではあったが、話し合えた事がよいのでは？
 - ・私たちが現に直面している問題でしたので興味のあるテーマ選びをしていただいたと思っています
 - ・もっともっと回数を増やさないと理解できません

8. 今後「市民討議会参加のご案内」が届いたらどうしますか？

- 1 日程が合えばぜひ参加したい 6 票
- 2 参加しない 0 票
- 3 テーマによっては参加したい 3 票
- 4 その他 2 票
 - ・ぜひ参加したい
 - ・未知数

9. 情報提供(者)についてはいかがでしたか？(複数回答可)

- 1 説明がわかりやすく参考になった 7 票
- 2 説明がわかりにくく疑問が解消されなかった 2 票
- 3 情報に偏りがあった 2 票
- 4 一方的で参考にならなかった 0 票
- 5 説明が長い 0 票
- 6 説明が短い 0 票
- 7 その他
 - ・もう少し自分の考えを入れてもよい
 - ・情報提供者の選考もよかったですと思います
 - ・もっと具体的に時間をかけてもよい(テーマを少なく)

10.a) 討議の時間(1 コマ)についてはいかがでしたか？

- 1 ちょうどよい 4 票
- 2 短くて意見がまとまらなかった 2 票
- 3 長くて疲れた 0 票
- 4 その他
 - ・すぐに回答を出すのは経験していないと出て来

- ない
 - ・多少短かった様です。もう少し考えたかったです
 - ・もう少し長くてもよいのでは？

b) 前問で1「ちょうどよい」以外にお答えの方におたずねします。適切と思われる時間は何分ですか？

- ・60 分
- ・あと 10 分～15 分程度時間が欲しかったです

11. 討議の小グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか？(複数回答可)

- 1 ちょうど良い 6 票
- 2 少ない 1 票
- 3 多すぎる 0 票
- 4 和やかで話しやすい 6 票
- 5 参考になる意見が多かった 4 票
- 6 自分の主張ばかりで議論しづらかった 0 票
- 7 話しづらく重い雰囲気だった 0 票
- 8 その他
 - ・ベテランに後押しされた
 - ・メンバーの自己紹介なく「討議を始めてください」と指示されても進行しにくい!
 - ・始まる前に自由なおしゃべりの時間を 15 分位して、お互いをもう少し知り合いたかった
 - ・始める前に何町から来たのかとか自己紹介が必要と思われます

12. 討議の進め方はいかがでしたか？

- 1 スムーズで良かった。4 票
- 2 まあまあ 4 票
- 3 わかりにくい。改善すべき 1 票
- 4 その他
 - ・自己紹介する時間が欲しい

13. 今回の討議会には洋室(椅子)を用いて開催しましたが、過去2回においては和室を使用しております。この点についてご意見がありましたらお聞かせください。

- 1 洋室がよい 9 票
 - ・足が楽でした

- ・腰が悪いため
- ・体が楽である 長時間でも
- ・足が痛くならない。白板の所にもすぐに行ける
- ・靴を脱ぎたくない。和室はくつろぎすぎる
- ・座っていると腰が痛くなるため
- ・会議や勉強会はイスになれている為。疲れない

2 和室がよい 0 票

3 どちらでもよい 1 票

14. 報酬についてご意見をお聞かせください。

また、その理由は？

1 支払うべき。3 票

- ・今後の為にもよいと思います
- ・1 日をこの会議のために費やしたのだから
- ・せめて交通費ぐらいは出して欲しい

2 いらぬ。2 票

- ・自分の思っている事を聞いて頂ける。周りの人の考え方も分かる
- ・参加する事によって十分だから

3 その他 4 票

- ・勉強させて頂いた感がありますので、頂いてもよろしいのでしょうか？
- ・どちらでもよい
- ・いただければもちろん嬉しいが、要求するつもりはない
- ・主催者側の好意と受け止める

15. a) 今回 1 日の開催に対する手当の金額 (5,000 円) についてはいかがでしょうか？

1 適切 3 票

2 多いと思う 1 票

- ・足代程度で、私は結構だと思いました

3 少ないと思う 0 票

その他：無回答 (3 名) / 不要 (1 名) / わかりません (2 名)

b) 前問 a) で 1 「適切」以外にお答えの方におたずねします。1 日の開催に対して適切と考えられる額はいくらですか？

(回答無し)

16. 市民討議会の討議中は公開にすべきですか？それとも非公開にするべきですか？またその理由は？

1 公開にするべき。4 票

- ・より責任を持って発言することになると思うから
- ・全体を見て改善すべき点を指摘してもらえる
- ・特に理由はないが、こういう席に毎回出ている人はいなければよいと思う

2 非公開にするべき 2 票

- ・まだ出席する人が慣れていないと思われるので、回を重ねる度に会場を大きくし公開にして行くのもよいと思う

その他：無回答、コメントのみ

- ・本日程度の公開ならよいと思う

- ・(公開も、非公開も) 内容によりけりだと思います

17. 案内状の送付に関するご質問です。

a) 今回の無作為抽出は市内地番からランダムに取り出し、直接ポスティングによりお届けしました。市民討議会のような目的で、住民基本台帳を用いて無作為抽出を行うことに関してどう思われますか？

1 妥当な目的だと思う 8 票

2 住民基本台帳は使用すべきでない 3 票

b) 前問で 2 「使用すべきでない」とお答えの方におたずねします。その理由をお聞かせください。

- ・個人情報が多過ぎるから
- ・台帳を作る時の理念はどうであったか元に立ち戻り考えてからすべきです

c) ポスティング以外の送付手段として、無作為抽出と住宅地図の併用による選び出した住所・ご氏名への郵送について、現在検討しております。この点についてはどのように思いますか？

1 ポスティングに比べ信用できる 8 票

・(B) のケースは、開封しないケースが予想されます

2 ポスティングに比べ信用できない 0 票

3 なんともいえない 1 票

18. 今回は日曜の開催としましたが、開催日程により参加のしやすさはありますか？(複数回答可)

1 日曜 7 票

2 土曜 3 票

3 平日 2 票

19. 「wellvoice たちかわ市民討議会」という名称についてはどのように思われますか？

・よいと思います (2 名)

・ちょっとわかりにくい

・悪くないと思う。これをまた変更すると会が定着しないと思う

・「どういう意味」という興味を誘う点では、おもしろい

・モダンだと思う

20. 「情報提供者」という名称についてはどのように思われますか？

・よいと思います

・講師の内容によっては、失礼な感じがする

・情報より話題提供

・何となく、後ろめたいネーミングだと思う

・情報の提供ではなく、実際の経験者と言った方がよいと思う

19. 「討議」という名称についてはどのように思われますか？

・堅いですが、真剣になれると思う

・テーチングにしたら？

・よいと思う

・ブレインストーミング風で多少ラディカルに感じる

20. 今後「市民討議会」で取り上げてほしい

テーマはありますか？以下より 3 つ以内でお答えください。また、具体的なテーマがございましたらお書きください。

1 市政 6 票

・地域住民の考えはどの様に伝えるか

・財政について

・市長選は何選まで可か？

・駅周辺の環境問題「ミニ歌舞伎町」は嫌！

・市長との会話の場を、年に 2 回以上町会に出席

・税金の使われ方

2 都政 2 票

・23 区と多摩の格差をなくす

・23 区と三多摩の格差を考えて欲しい

3 国政 1 票

・立川市と国の行政機関が進出しているが…

4 経済 1 票

5 労働 0 票

6 教育 2 票

・学校 5 日制と土曜日学習

7 保健・福祉 3 票

・障害保険など

8 環境 5 票

・地元の住民ができる環境改善の手法

・熊その他動物の生態系

・地球環境への対策

9 交通 4 票

・信号機をもう少し考えて、車の交通量で信号を操作させる(渋滞解消策)

・完全週間をもっと町会まで徹底

10 防災・治安 7 票

・地域住民の参加の手法

・パトロールは町会の自主的な方法

・災害時の場合の人のあり方とか

11 科学・技術 1 票

12 その他 0 票

23. 「青年会議所」と言う公益法人をご存じでしたか？また、その印象や活動イメージをお書きください。

1 知っていた 9票

- ・ボランティアだと思っていた
- ・何をしているのか分からなかった
- ・友人が入会していたので
- ・細かいことは知りませんでした
- ・高齢者には関係ないと思っていた
- ・ここまで積極的にやっているのには、今後が楽しみ

2 知らない 1票

24.a) これまで市やNPOが主催する討論会やフォーラムなどに参加したことがありますか？

1 ある 2票

2 ない 8票

b) 1「ある」と答えた方に質問します。どういう議題の市民会議でしたか？

- ・町づくりについて
- ・立川市民みらい会議・NPO法人の概要について

c) 2「ない」と答えた方に質問します。なぜ今日の市民討論会に出席されましたか？

- ・郵便が届いたこと
- ・案内状が届いたから
- ・封筒の表書きや、本文の説明、電話での問い合わせの時の対応の仕方に「あたたかさ」を感じたから
- ・これから、市政・ボランティアに力を入れたいと思ったから
- ・立川の町がよくなればと思って
- ・60歳を超え何かを得たくて出席しました

25. 今後、立川青年会議所からの事業ご案内を希望されますか？

a. 「wellvoice たちかわ市民討論会」に関する開催・傍聴のご案内

1 希望する 6票

2 希望しない 1票

b. その他、立川青年会議所が主催・共催する事

業のご案内

1 希望する 5票

2 希望しない 1票

26. その他、ご意見やご要望がございましたらお聞かせください。

- ・有難うございました。勉強になりました。
- ・乱筆、乱文で失礼いたしました。年のせいか、漢字を忘れてしまいます。私は生まれも育ちも立川です。今年で在住60年…少しは立川の事愛してみようかと…
- ・貴重な体験をさせて頂きました。有難うございました
- ・今回の会へ出席の返事を出したが、前日までにその返事が来なかったので、電話で確認し今日出席しました。
- ・本日はありがとうございました。貴会議所の益々のご発展をお祈り致します。
- ・今後とも積極的に参加したい！

■無作為地点抽出基礎資料

町名	世帯数	人口			番地	割当番号
		男	女	計		
富士見町1丁目	1,848	1,889	1,976	3,865	1～36	1～1848
富士見町2丁目	1,486	1,456	1,477	2,933	1～36	1849～3334
富士見町3丁目	396	466	403	869	1～21	3335～3730
富士見町4丁目	836	918	861	1,779	1～23	3731～4566
富士見町5丁目	666	721	717	1,438	1～27	4567～5232
富士見町6丁目	2,524	2,683	2,677	5,360	1～72	5233～7756
富士見町7丁目	1,328	1,669	1,655	3,324	1～45	7757～9084
柴崎町1丁目	1,026	1,064	1,068	2,132	1～23	9085～10110
柴崎町2丁目	1,212	1,143	1,218	2,361	1～26	10111～11322
柴崎町3丁目	777	712	716	1,428	1～18	11323～12099
柴崎町4丁目	946	979	1,058	2,037	1～23	12100～13045
柴崎町5丁目	402	467	466	933	1～21	13046～13447
柴崎町6丁目	229	287	286	573	1～23	13448～13676
錦町1丁目	2,440	2,298	2,017	4,315	1～24	13677～16116
錦町2丁目	1,309	1,233	1,250	2,483	1～13	16117～17425
錦町3丁目	919	844	957	1,801	1～12	17426～18344
錦町4丁目	563	544	566	1,110	1～12	18345～18907
錦町5丁目	931	1,114	1,058	2,172	1～20	18908～19838
錦町6丁目	2,120	2,049	2,106	4,155	1～29	19839～21958
羽衣町1丁目	1,919	1,565	2,002	3,567	1～25	21959～23877
羽衣町2丁目	2,244	2,248	2,353	4,601	1～70	23878～26121
羽衣町3丁目	924	887	985	1,872	1～29	26122～27045
曙町1丁目	1,580	1,418	1,300	2,718	1～37	27046～28625
曙町2丁目	1,100	1,103	1,157	2,260	1～42	28626～29725
曙町3丁目	2,373	2,399	2,270	4,669	1～49	29726～32098
高松町1丁目	1,389	1,395	1,149	2,544	1～31,100,300,384,3664,3665	32099～33487
高松町2丁目	2,281	2,144	1,932	4,076	1～39	33488～35768
高松町3丁目	1,572	1,496	1,408	2,904	1～32	35769～37340
緑町	1,473	1,604	1,257	2,861	3173,3233,3256,3280,3567	37341～38813
栄町1丁目	857	986	810	1,796	1～37,3895	38814～39670
栄町2丁目	785	987	1,025	2,012	1～69	39671～40455
栄町3丁目	508	578	616	1,194	1～63	40456～40963
栄町4丁目	1,121	1,195	1,104	2,299	1～47	40964～42084
栄町5丁目	1,548	1,699	1,790	3,489	1～63	42085～43632
栄町6丁目	668	764	752	1,516	1～26	43633～44300
若葉町1丁目	2,224	2,537	2,721	5,258	1～32	44301～46524
若葉町2丁目	728	962	1,004	1,966	1～58	46525～47252
若葉町3丁目	680	879	874	1,753	1～76	47253～47932
若葉町4丁目	1,653	1,636	1,723	3,359	1～26	47933～49585

町名	世帯数	人口			番地	割当番号
		男	女	計		
幸町1丁目	441	550	512	1,062	1～44	49586～50026
幸町2丁目	1,297	1,498	1,573	3,071	1～58	50027～51323
幸町3丁目	526	595	571	1,166	1～34	51324～51849
幸町4丁目	1,658	1,772	1,758	3,530	1～66,82	51850～53507
幸町5丁目	1,264	1,486	1,484	2,970	1～112	53508～54771
幸町6丁目	554	620	636	1,256	1～37,169	54772～55325
柏町1丁目	980	1,046	1,143	2,189	1～37	55326～56305
柏町2丁目	376	454	474	928	1～50	56306～56681
柏町3丁目	649	728	677	1,405	1～60	56682～57330
柏町4丁目	1,806	1,865	2,009	3,874	1～79	57331～59136
柏町5丁目	98	0	98	98	1～6	59137～59234
泉町	363	510	535	1,045	1,13,108,789,830,841,899,935, 1078,1156,3567	59235～59597
砂川町1丁目	396	525	537	1,062	1～67	59598～59993
砂川町2丁目	661	892	910	1,802	1～71	59994～60654
砂川町3丁目	509	642	562	1,204	1～47	60655～61163
砂川町4丁目	909	1,202	1,135	2,337	1～70,72	61164～62072
砂川町5丁目	324	373	357	730	1～54	62073～62396
砂川町6丁目	721	876	875	1,751	1～49	62397～63117
砂川町7丁目	1,066	1,387	1,314	2,701	1～60	63118～64183
砂川町8丁目	1,508	1,932	1,778	3,710	1～91	64184～65691
上砂町1丁目	1,360	1,448	1,769	3,217	1～14	65692～67051
上砂町2丁目	293	391	363	754	1～45	67052～67344
上砂町3丁目	535	715	666	1,381	1～61	67345～67879
上砂町4丁目	334	396	424	820	1～56	67880～68213
上砂町5丁目	1,811	2,125	2,136	4,261	1～85	68214～70024
上砂町6丁目	0	0	0	0	1～76	—
上砂町7丁目	0	0	0	0	1～3	—
一番町1丁目	968	1,276	1,139	2,415	1～12	70025～70992
一番町2丁目	770	949	928	1,877	1～12	70993～71762
一番町3丁目	317	401	410	811	1～61	71763～72079
一番町4丁目	818	967	952	1,919	1～49	72080～72897
一番町5丁目	1,393	1,354	1,488	2,842	1～37	72898～74290
一番町6丁目	1,322	1,797	1,815	3,612	1～73	74291～75612
西砂町1丁目	411	539	493	1,032	1～8	75613～76023
西砂町2丁目	742	974	999	1,973	1～29	76024～76765
西砂町3丁目	302	418	392	810	1～80	76766～77067
西砂町4丁目	210	290	272	562	1～64	77068～77277
西砂町5丁目	885	1,122	1,142	2,264	1～76	77278～78162
西砂町6丁目	388	539	507	1,046	1～90	78163～78550
西砂町7丁目	31	13	43	56	1～71	78551～78581
合計	78,581	85,685	85,640	171,325		

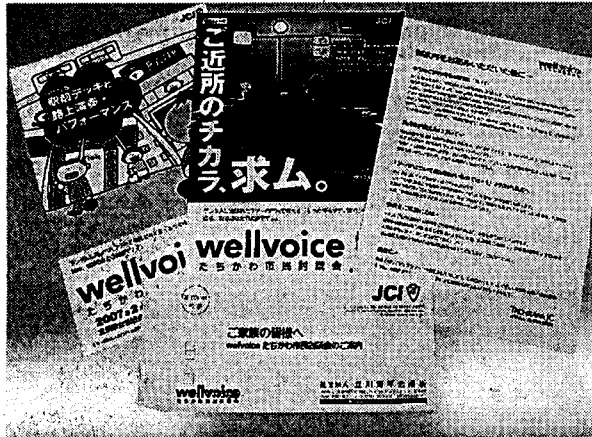
立川市発行「町別世帯数と男女別人口」(平成19年1月1日現在)による

集合住宅指定枠

住所	名称	戸数	割当数
富士見町 1-1	都営立川富士見町一丁目第三アパート	168	2
富士見町 1-4-29	パークアベニュー桜 トーカンマンション立川第2	122	1
富士見町 1-35-13	ライオンズスクエア立川レジデンス	244	3
富士見町 7-32-44	レガリア	550	10
錦町 1-6-8	ライオンズステージ立川ラフィナタワー	145	1
錦町 1-11-7	メゾン・ド・ノアロゼ錦町	102	1
錦町 1-13-12	立川サニーコート	137	1
錦町 1-24-27	ナイスエスアリーナ西国立	150	2
錦町 3-12-16	ハynes立川	167	2
羽衣町 1-1	都営羽衣町一丁目第3アパート	126	1
羽衣町 1-11	都営羽衣町一丁目第2アパート	148	1
曙町 1-22-25	アバクス立川A棟	144	1
曙町 1-32-42	ブラザシティ立川1・2号棟	307	5
曙町 2-33-14	クリオ立川弐番館	177	2
曙町 2-42-23	アーバンライフ立川	202	3
曙町 3-2-15	グレースシアシティ立川アクティブウィング	147	1
曙町 3-2-24	グレースシアシティ立川ブロードウィング		
曙町 3-17-30	アートアベニュー立川1・2号棟	192	2
緑町 3256	多摩緑第一・第二・第三住宅	241	3
栄町 1-21-1	公社江ノ島道東住宅3～13号棟	318	5
若葉町 1-13-2	けやき台団地1～30号棟	1253	24
若葉町 1-24-30	若葉の杜コスモガーデンズ壱～七番館	179	2
若葉町 4-25-1	若葉町団地1～44号棟	1416	27
幸町 2-2-1	西けやき台団地1～8号棟	231	3
幸町 2-2-3	西けやき台団地9号棟		
幸町 4-52-1	幸町団地1～26号棟	851	16
柏町 1-12-1	都営柏町一丁目アパート1～11号棟	371	6
柏町 4-51-1	柏町団地1～19号棟	626	11
泉町 1156-4	トミンハイム立川泉町	362	6
砂川町 6-38-5	日神パレスステージ玉川上水	128	1
上砂町 1-13-1	都営上砂町一丁目アパート1～25号棟	1180	22
上砂町 5-60-1	リーベスト立川	132	1
一番町 1-14-1	ハイホーム立川一番町	169	2
一番町 5-5-3	レクセルガーデン武蔵砂川	123	1
一番町 5-8-5	都営立川松中アパート1～33号棟	1163	22
一番町 6-3-1	立川一番町東団地56～62号棟	148	1
一番町 6-8-1	立川一番町東団地30～55号棟	379	6
一番町 6-17-1	エステート立川一番町1～29号棟	468	8

地区ごと案内状 無作為に送付

無作為抽出された世帯に送る案内状やパンフレットの一部



立川JCが取り組み

多様な民意をくみ取るために、国内では珍しい手法に立川青年会議所(立川JC)が取り組んでいる。特定の人に偏りがちな公募ではなく、無作為に選んだ市民に地域の問題を議論し、意見を述べてもらう。課題は多いが、街づくりの民意を反映させる方法として定着させたいという。27日のテーマは「近所の手カラ、求ム」。近所(きま)いや自治会活動を考える。(須藤龍也)

ランダムに聞く市民の声

27日討議会 公募より民意反映

「たちかわ市民討議会」と名づけた。先進地、ドイツの制度をモデルに昨年、東京青年会議所が手掛け、昨年8月に立川JCが続いた。地区ごとに無作為に選んだ世帯に案内状を送付し、参加希望者が集まり議論を交わす。

第一回のテーマは「市議会と市民の関わり」だった。500世帯に案内状を出し、12人が参加。2月の第2回「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」は1200世帯に出し、10人が参加した。

「たちかわ市民討議会」と名づけた。先進地、ドイツの制度をモデルに昨年、東京青年会議所が手掛け、昨年8月に立川JCが続いた。地区ごとに無作為に選んだ世帯に案内状を送付し、参加希望者が集まり議論を交わす。

駅前デッキの討議では、本来禁じられている路上演奏や街頭パフォーマンスへの対応を考えた。ルールを作ったうえで立川市の新たな文化として認める▽同時に、待ち合わせ場所にもなるシンボルが駅前が必要、との方向性がまとまった。

小金井市が今年度から可燃ごみ処理を全量市外に委託することになった問題で、市は予定していた6カ所すべての衛生組合などと契約を結んだ。契約量は、西多摩衛生組合1万7千分寺市6千、小平・村山・大和衛生組合2024、柳井東村東村組合489ト。

市民討議会に参加した大多数の人は、行政の市民委員に応募したり、公の場で意見を述べたりした経験はなかった。こうした「サイレント・マジョリティー(沈黙する多数派)」の意見をくみ取り、行政への提言や街づくりの課題を生かしたいというのが狙いだ。

立川JCの金子幹広さんは「行政の一般公募委員に集まる傾向は、特定の市民に偏りがち。市民討議会は『普通の市民』の声を聞く手法の一つとして有効ではないか」と話す。

ごみ市外委託の契約完了

小金井市が今年度から可燃ごみ処理を全量市外に委託することになった問題で、市は予定していた6カ所すべての衛生組合などと契約を結んだ。契約量は、西多摩衛生組合1万7千分寺市6千、小平・村山・大和衛生組合2024、柳井東村東村組合489ト。

山形417ト、武蔵野市300ト。最後に残っていた武蔵野市と、22日に契約した。今後は、新焼却場の場所を決める協議を本格化する。

前10時から、立川市女性総合センター「アタイム」(同市曙町2丁目)ですでに市内1500世帯に案内状を送付した。討議の傍聴はだれでもできる。問い合わせは立川JC(042-5927-1001)へ。

圏央道の通行料引き下げを要望
国土交通省相武園道事務所
武蔵野市の法政第一中

建築規制条例案
武蔵野市提出へ
12月議会に
武蔵野市の法政第一中

DVD CD GAME
お買い上げありがとうございます!
お売り下さい!

042-7376-006
042-751-7006
042-582-4756
042-329-8927
042-569-1124
042-347-2036
042-523-7360
042-398-2218

※大塚の郵便局

2007年9月15日 発行

編集 社団法人立川青年会議所
きづく・たちかわ委員会

委員長 金子 幹広

副委員長 小菅 岳

幹事 落合 成治

委員 青木 洋輔

猪股 健一

大石 博巳

大島 亮

岡部 雅彦

岡山 昭

小澤 清富

尾上 研児

織原寛一郎

北島 宏晃

酒井 大史

田中 健一

並木 益身

西岡 寛泰

新田 晃一

肥後 和志

森川 亮

地区長 矢島 伸宏

副理事長 端 晶弘

発行 社団法人立川青年会議所
東京都立川市曙町 2-38-5
立川ビジネスセンタービル 12階
TEL042-527-1001 FAX042-527-6600
www.tachikawajc.or.jp

©Tachikawa Junior Chamber inc., 2007

禁無断転載